

私 の 工 夫

自分の考えをもち、
伝え合う社会科学学習
〈第6学年の実践〉

笠岡市立大井小学校

指導教諭 清水 健吾



1 はじめに

これまで、社会科の教材開発や指導法の工夫など、多くのことに挑戦する中で、魅力ある社会的事象に出会ってきた。本稿で紹介する実践の「織田信長・豊臣秀吉・徳川家康」の3人も戦国の世を統一していったという力強さや、天下統一は3人のリレーによって進められたことなど魅力あふれる武将であり、問題解決的な学習を通して児童が自分の考えをもち、積極的に伝え合うことができる学習材だと言える。学習問題の素材や学習形態、板書など、自分なりに工夫して取り組んだ実践を紹介したい。

単元名

信長・秀吉・家康と天下統一

(全7時間)

あなたに〇〇賞を贈ります

2 指導の実際

(1) 単元全体の工夫

①第一次(問題をつかむ過程)

1時目は、見通しをもって学習に取り組むことができるようにするために、単元を貫く学習問題を作成した。まず、戦国時代の勢力図と有名な武将の名前がたくさん書かれた資料を提示し、戦国の世が100年以上続いたことを知らせた。その後、3人を紹介し、勢力を広げていった様子が分かる勢力図を示した。この2つの資料を

提示したことで、児童が「多くの武将はできなかったのに、3人はどうやって？」という疑問を自然にもつことができるようにし、学習問題「3人はどのようにして力を付けたのか」を設定し、主体的な学びにつなげた。

②第二次(問題を解決する過程)

2時目は、3人の武将の年譜を基に業績を概観し、どのようにして力を付けたのかを予想したり、学習計画を立てたりした。3時目から5時目は、学習問題の解決に向けて同じ視点で追究活動を行った。実際の授業では、教科書の本文と資料を全て活用することももちろん、資料と資料、本文と資料を結び付けて考える場を意図的に設定したり、資料の基本的内容(表題・出典・縦軸と横軸・資料内で使われている記号など)を全員で確認して読み取らせたりした。これらのことにより、より多くの児童が3人の業績とその成果、勢力を広げていく様子を具体的に伝えられることができ、活発な発表へ

とつながった。6時目は既習の内容を基に学習問題を解決した。「3人は、政策や外交などにより武力や財力を高めることで力を付け、全国を統一した」と単元のまとめを行った。

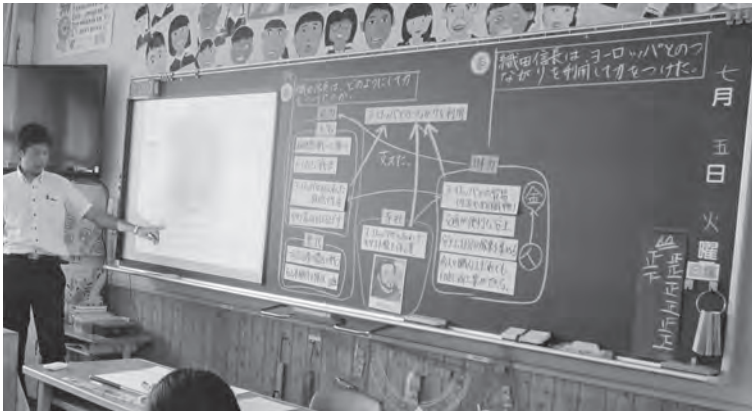
③第三次(活用する過程)

7時目は、「3人に表彰状をおくろう」というめあてで学習を進めた。3人の業績や人柄などをとらえ直し、織田信長には「武力で戦国時代を変え始めたで賞」や、豊臣秀吉には「かしこい政策で力を高めたで賞」などを考え、根拠と共に友達に伝えることができた。

(2) 1単位時間の工夫

(3時目:織田信長)

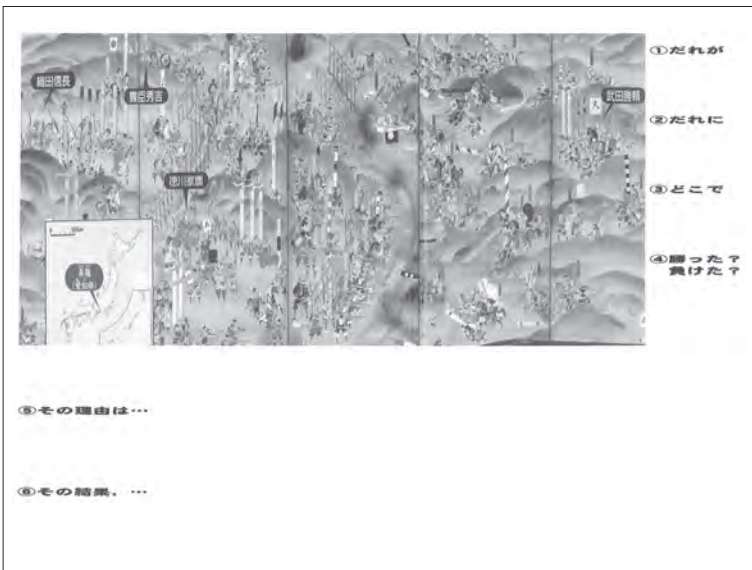
①自分の考えをもつために
本時は「織田信長はどのようにして力を付けたのか」というめあてで学習を進めた。教科書の本文や資料から読み取った児童の考えを分類しながら板書にまとめ、まとめごとに「大名」「農民」「武力」「財力」などの名前を付け、



多くの知識が関連付けられた板書

キーワードとして提示した。また、「織田信長は財力が高まったら何に使うのか」「3つのグループに共通していることは何か」などを発問することで、多くの事実と事実を関連付けていった。

これらのことにより、武力を支えた財力の大切さやヨーロッパから伝わってきたものを利用したことに気付くことができ、織田信長の業績と成果を視覚的にとらえ、



長篠の戦いを説明するワークシート

多くの知識を関連付けながら学習問題について考えることができた。そして、本時のまとめ「織田信長は、ヨーロッパから伝わったものを利用することで武力と財力を高め、力を付けた」に迫ることができた。

②考えを伝え合うために
本時のまとめの後に、長篠の戦いを6つの観点（だれが、だれに、



グループで話し合ったワークシートを基に発表する児童

どこで、勝敗、理由、その結果どうなった）について説明する課題をグループ学習として行った。6つの観点を示したことで、学習内容を活用しながら考え、課題を解決するために積極的に意見交流をすることができた。児童の発言やワークシートには、「ヨーロッパから伝わった鉄砲を利用して」「ヨーロッパとの貿易で財力を高め」など、長篠の戦いの絵



フラッシュ型教材の活用

どこで、勝敗、理由、その結果どうなった）について説明する課題をグループ学習として行った。6つの観点を示したことで、学習内容を活用しながら考え、課題を解決するために積極的に意見交流をすることができた。児童の発言やワークシートには、「ヨーロッパから伝わった鉄砲を利用して」「ヨーロッパとの貿易で財力を高め」など、長篠の戦いの絵

図からは見付けることができない、本時の学習内容を生かした言葉が多くあった。

3 おわりに

上記の実践では、紹介した工夫以外にも、自分の考えをもち、伝え合うために社会科学アンケートや自作のフラッシュ型教材、ICT機器の活用など、様々な工夫を行った。今後も学習指導要領の改訂を念頭に、児童の主眼的・対話的で深い学びの実現をめざし、授業改善を行っていきたい。